



Since 1972.2.24

帯広西ロータリークラブ

9 2008, SEPTEMBER
第1780回例会

平成20年9月18日



会報

THE ROTARY CLUB OF OBIHIRO WEST
Weekly Report

<http://www.tokachi.co.jp/wrotary/>



2008年9月

新世代のための月間

会 長	越智 孝佳	広報委員長	久保 且佳
副 会 長	太田 万也	広報副委員長	堂山 啓太
副 会 長	神田 龍一	委 員	杉田 吉弘
幹 事	石原 英樹	委 員	安原 明彦
会 計	高田 晃一	委 員	飯田 正行
S A A	佐々木和彦	委 員	横田 幸宏
		委 員	上垣香世子
		委 員	小島 清司

会長報告

会長 越智 孝佳



皆さん、こんにちは。会長報告を申し上げます。
最近目にしたデータの中で、帯広市の人口推移についての資料が目にとまりました。帯広市の第5期総合計画の中で2010年に向けて、18万人代の目標を掲げておりましたが、現在では約16万8千人となっております。私が見ました2005年度資料の人口推計予測でも、減少予測はされておりましたが、それでは平成22年度に、17万人をきるようになっておりました。2年ほど早まったと言うことです。社会的、経済的な背景も大きく関与しているのではないかと考えております。

ただ私が意識をもった事は、単なる人口減少ということだけでなく、その人口構成比に改めて注目いたしました。今日は細かい数字はお話いたしません、帯広も大きく年代別の構成比が変化していきます。その人口推移予測では、帯広市の2030年には、人口構成比は50歳以上が53%となり、逆に20歳未満は15%となっております。

日本全体の社会構造が、これから大きく変化していく事は間違いありません。今日お話ししたい事は、高齢化社会が云々と言うことではなく、私たちの足元でも、どんどん変化をしてきております。私たちのロータリー活動もそういった社会背景に焦点を合わせた取り組みも、今後必要になってくるのではないかと考えます。ピントの合った社会奉仕や事業に取り組むべきではないかと考えます。求められているものは何か…ロータリーがすべき事は何か…ただ漫然とではなく、社会構造に合った、また求められる方向性を模索すべきかと思っております。今年度も含めて、各委員会の取り組みの中で、一つのテーマとして一考していただければと思います。

もう一点、ご報告があります。皆様のご承知の通り、来年度の2500地区第6分区分ガバナー補佐を当クラブより輩出する事になっております。それについてのクラブ内の選考基準は特に謳われておりません。つきましては、資格基準であります“会長経験者”という事で、歴代会長会を開催して頂き、その中で推挙を頂きました。それをもって、先週の理事会の中で、理事者の総意を頂き、本日皆様にご報告申し上げます。2009-10年度のガバナー補佐を、前年度会長の茨木雅敏会員にお願いしたいと思います。大変な重責ではありますが、皆様もご協力を宜しくお願い致します。この後、茨木会員に一言ご挨拶を頂きたいと思っております。

以上で会長報告とさせていただきます。ありがとうございます。

また、この後会長より大友会員にマルチプルボールハリスフェローピンが授与されました。

たいまつ宣言

この「たいまつ宣言」は創立30周年にあたり、西ロータリークラブの創立の心を知るところから発し、我々が未来へ向けての道標とするものである。たいまつのように我々の行く道を照らし、明るい未来へと導くものである。

- 1.我々は 垣根のない交流を目指し 友情の輪を拡げる
- 1.我々は 他に依存することなく 自らを発する
- 1.我々は 常に変革をもって 行動する
- 1.我々は 自己の研鑽の為に 真の奉仕を実践する
- 1.我々は 生涯現役であり 活動に引退はない

出席状況報告

月/日	8/7	8/21	8/28
例 会	1775回	1776回	1777回
総会員数	73名	73名	73名
計算に用いる出席数	66名	66名	66名
ホームクラブ出席	61名	51名	47名
メークアップ参加	17名	11名	16名
欠 席 者	5名	4名	3名
出 席 率	92.4%	93.9%	95.5%

今月の主な行事

- 9月 7日 家族野遊会(9月4日繰下げ例会)
- 11日 誕生・結婚祝
- 18日 夜間例会
- 25日 休会



点鐘 越智孝佳会長
 開会宣言 北川勝啓副SAA
 ロータリーソング (我等の生業)
 ゲスト紹介 越智孝佳会長
 国土交通省北海道開発局帯広開発建設部部長 安田 修様

(会食)
 会長報告 越智孝佳会長
 就任挨拶



茨木雅敏2009-2010年度ガバナー補佐
 歴代会長会で指名していただき、2009年—2010年の第6分区のガバナー補佐となりました。前年度の冬の歴代のガバナー補佐会議がありまして、次年度の補佐をどこから出すかということがありました。その席上、帯広西からということに決まり、このような形になりました。柴田ガバナーエレクトの年度です。地区大会等の行事に向けての準備等もあろうかと思えます。私自身、最低各クラブ年4回まわらなければなりません。またIMの主管をしなければなりません。皆様には、二重にいろいろと御協力をいただかなければならないと思えます。よろしくお願い致します。

会務報告 石原英樹幹事
 ①帯広東RC、9月23日(火)は祝日のため休会と致します。



- ②帯広西RC、9月25日(木)は休会と致します。
- ③帯広東RC、夜間例会開催のご案内
 日 時 平成20年9月30日(火)午後6時30分
 場 所 帯広ワシントンホテル
- ④帯広南RC、10月13日(月)祝日休会と致します。

プログラム
 社会奉仕委員会 齊藤憲生委員長
 初めての担当例会です。社会奉仕委員会では本年度、環境保全、エコ、地球温暖化防止をテーマに3回の卓話を予定しています。今日は第1回目です。安田部長様は、私の浦幌時代の幼友達です。本日は7時半までよろしくお願いします。



国土交通省北海道開発局
 帯広開発建設部部長 安田 修様
 「北海道環境イニシアティブ」の展開開発局行動プログラムについて右記のパワーポイント資料に基づいて、懇切丁寧に説明していただきました。



閉会宣言 北川勝啓副SAA
 点鐘越智孝佳会長点鐘 越智孝佳会長

地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画	
第1章 計画の意義	第1節 新たな北海道総合開発計画の意義
第2章 計画の目的	第2節 計画の目的
第3章 計画の展開	第3節 計画の展開
第4章 計画の推進	第4節 計画の推進
第5章 計画の成果	第5節 計画の成果



「北海道環境イニシアティブ」の展開
 開発局行動プログラムについて

あじろ 北川勝啓 帯広開発建設部
 秋の彩り(中社内村) 中社内村 片山純二氏

〇バイオマス資源の有効活用

- ・北海道をバイオマス利活用の先進地域へ
- 〇室蘭港におけるPCB廃棄物処理
 - ・室蘭港におけるPCB廃棄物処理
- 〇総合静脈物流拠点港(リサイクルポート)
 - ・総合静脈物流拠点港(リサイクルポート)
- 〇北海道エコ・コンストラクション・イニシアティブ(建設現場における環境対策)
 - ・北海道エコ・コンストラクション・イニシアティブの展開

環境に優しいパレットストローブ・バイオトイレの活用

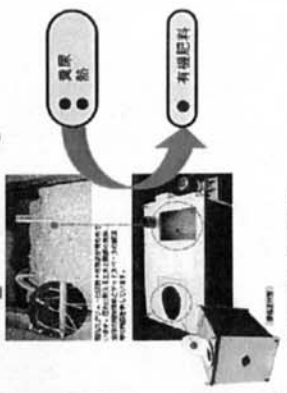


パレットストローブの活用



バイオトイレの活用

- ～国立公園内など、環境に配慮すべしトイレで設置～
- ★ 水を排水しない為、水質汚染の心配がない
- ★ 汲み取り不要で、2～3回/年のおろぐり交換だけ
- ★ 下水処理が不要なので場所を選ばない
- ★ トイレ室内は無臭、異臭は有機肥料



(出典) 新技術(NETIS)資料

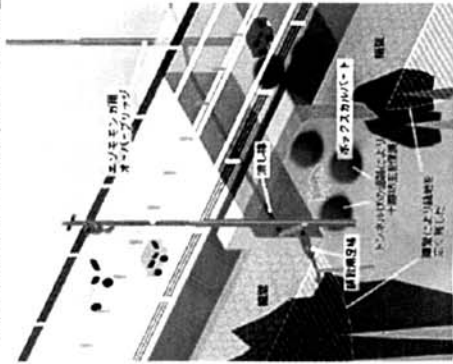
～コストは高いが環境への負荷軽減に一部現場で活用～

- ★ CO2を吸やさない
- ★ 枯海の可能性はある化石燃料を使用しない

燃料種類	燃費	1,000kcalあたりのCO2排出量
重油	4.00kg/1kcal	10.4g/1kcal
軽油	3.80kg/1kcal	10.0g/1kcal
LPガス	2.25kg/1kcal	5.6g/1kcal
電気	22.4kWh/1kcal	25.1g/1kcal

エコロード(道路構造のくふう) 帯広開発建設部

〇エコロードとは豊かな自然環境を保全するため、生態系にきめ細かく配慮した道路です。適切な路線選定を行うとともに、必要に応じて、橋梁・トンネル構造の採用や動物用横断歩道の設置等、道路構造を工夫しています。帯広開発建設部では、道路の建設が自然に及ぼす影響をできるだけ少なくするように配慮する目的で、エコロードの整備を促進しています。



- ・緑地をできる限り広く残し、早く回復させるために、養生を工事終了後に元に戻すなど、緑生の復元に努めました。
- ・地域の財産でもある十勝防犯や、野生動物の保護のため、トンネル状の通路(ポツカスカバルバート)を設け、内部には小動物が移動しやすいように渡し棒を設置しました。
- ・エゾモモンガ用に、オーバークリッジも設置しました。



ポツカスカバルバートの壁面には木の上下で生活するモモンガやエゾリスなどの動物が移動しやすいように、カラマツの丸木を設置しています。



小動物がオーバークリッジや「渡し棒」を利用しやすいように、林から支柱までを直径15センチの皮付き丸木でつないでいます。

北海道エコ・コンストラクション・イニシアティブの展開 (建設現場における環境対策)

～北海道エコ・コンストラクション・イニシアティブとは?～
豊かな自然環境を有する北海道において、河川沿サミットを契機として社会資本整備の建設現場においても発注者や受注者が地域とも連携しながら、新技術の普及・活用、建設副産物の有効利用、自然エネルギー・省エネ機械等の活用に先駆的に取り組み循環型社会の実現に寄与するものです。

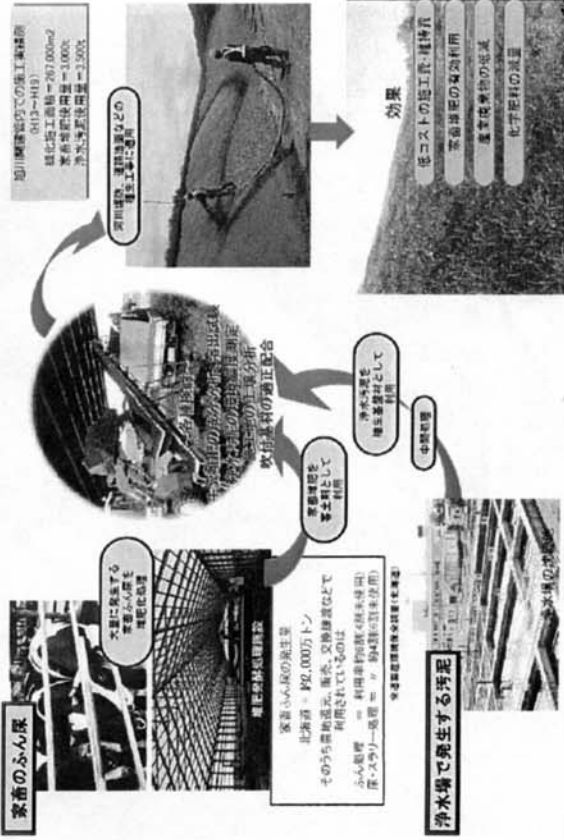
施策のポイント

- 〇平成20年度より建設現場における環境対策を新たに評価項目とするよう検討しています。
- ⇒環境対策でとくに優秀な工事を抽出し、河川沿サミットを契機として社会資本整備の建設現場においても発注者や受注者が地域とも連携しながら、新技術の普及・活用、建設副産物の有効利用、自然エネルギー・省エネ機械等の活用に先駆的に取り組み循環型社会の実現に寄与するものです。
- 〇建設現場における環境対策へ国が先導的取り組みを進めます。
- ⇒環境に配慮した新技術の活用を拡充すると共に、社会資本整備における自然エネルギーの通用拡大を予定。

3つの施策と取り組み事例

1. 新技術の普及、活用 (取り組み事例)	2. 建設副産物の有効活用 (取り組み事例)	3. 自然エネルギー・省エネ機械等の活用 (取り組み事例)
<ul style="list-style-type: none"> ◇環境に優しいパレットストローブ・バイオトイレの活用 ◇家畜糞尿の法面緑化材への再利用 	<ul style="list-style-type: none"> ◇建設副産物の活用 (コンクリート等) ◇間伐材活用 (立ち入り防止柵、樹木用支柱等) ◇ホケ子組敷の活用 (ケーシング中継、汚濁水浄化剤) ◇堤防河草・ダムでの丸木など河川現場発生材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ◇風力・太陽光エネルギーの活用 ◇廃食用油をバイオディーゼルの燃料として工業用車両に活用 ◇省エネ機械の導入、アイドリングストップ運動

家畜糞尿の法面緑化材への再利用



間伐材活用 (立ち入り防止柵、樹木用支柱等)

フェンス・柵への利用
 ★ 平成18年度は1,360m³

遊歩工への利用
 ★ 平成18年度は510m³

樹木用支柱への利用
 ★ 平成18年度は50m³

樹木用支柱への利用
 ★ 平成18年度は50m³

遊歩工への利用
 ★ 平成18年度は17,300m³

樹木用支柱への利用
 ★ 平成18年度は40m³

遊歩工への利用
 ★ 平成18年度は100m³

遊歩工への利用
 ★ 平成18年度は50m³

建設副産物の活用(コンクリート塊等)

既設コンクリート撤去状況

既設解体撤去状況
 内容:盛土材、中藍材に利用
 使用量:平成17年度約20万t(総用
 再資源化率95.3%(H17実績)

盛土材への利用

かごマット中詰め材活用

フトン嵩中詰め材活用

ブロック取り壊し状況

ホタテ貝殻の活用(ケーソン中詰、汚濁水浄化剤)

ケーソン中詰材への利用

★ 生産量の約半分が廃棄物
 ★ 処分費用は3~5万円/1t
 ★ 野積みすると悪臭発生

汚濁水浄化剤としての利用
 ★ 平成18年度は36,300m³

ケーソン中詰材への利用
 内容:閉鎖域水材、ケーソン中詰材に利用
 使用量:平成18年度約38,000m³使用
 ★ 平成18年度は1,980m³

汚濁水浄化剤としての利用
 ★ 平成18年度は36,300m³

平成18年度ホタテ生産量(概数)

★ 全国の約80%を生産

品名	生産量(千)
扇貝	483.9
アサリ	388.7
ハマグリ	72.8
カキ	6.5
シジミ	1.5

平成18年度本県産ホタテ殻利用をまとめた作成

